

最新売れ行きBEST本

☆印は初登場!!

2005.3.1~3.31

TTCネットワーク月間データ

(学参を除く小社全書籍の売れ数)

書名	著者名	本体	配本日	前月順
↑ 1 がんは誰が治すのか	松野 哲也	1600円	05.1.25	3
↑ 2 仕事をしなければ、自分はみつからない。	三浦 展	1600円	05.2.25	64
☆ 3 メディア異人列伝	永江 朗	2200円	05.2.28	New
4 考えてみれば不思議なこと	池内 了	2200円	04.12.20	1
↑ 5 ぼくのニューヨーク案内	植草 甚一	1400円	05.2.22	13
↑ 6 ニュー・ロックスの真実の世界	植草 甚一	1400円	05.2.22	11
↑ 7 普及版 数の悪魔	エンツェンスベルガー	1600円	00.8.23	14
↑ 8 ぼくの大好きな俳優たち	植草 甚一	1400円	05.2.22	16
9 自分の仕事をつくる	西村 佳哲	1900円	03.9.30	6
↑ 10 古民家再生ものがたり	降幡 廣信	1700円	05.1.31	16
11 スローな手づくり調味料	林 弘子	1600円	05.1.28	8
12 うなされ上手	中川 いさみ	1400円	05.1.28	4
13 女性のための「食べもの屋」開業術	勝身 利子	1600円	05.1.24	7
14 ぼくの東京案内	植草 甚一	1400円	05.1.25	2
☆ 15 最後の審判の巨匠	ペルッツ	2000円	05.3.23	New
↑ 16 自分を生きる人たち	追分 日出子	1800円	05.2.22	48
↑ 16 ヒーリング・キャット	葉 祥明	1500円	04.1.30	19
18 古書の聖地	コリンズ	2800円	05.1.31	9
☆ 19 人生の特別な一瞬	長田 弘	1600円	05.3.25	New
☆ 20 サスペンス映画の研究	植草 甚一	1400円	05.3.25	New
20 我もまた渚を枕	川本 三郎	1900円	04.11.30	15



よめば! 納得の科学エッセイ 売れ続けています!

6刷重版中!

考えてみれば
不思議なこと

池内了 著 13/20 配本

ISBN 4-7949-6649-0 本体 2200円

楽しい自然科学トリビア(読売新聞
3/13(日)読書面)、「科学オチ」を勇気づける
新博物学(朝日新聞 2/13(日)読書面)
等々、各紙誌の絶賛紹介で売行き加速中!
科学読み物 定番として 欠かせない一冊です!!

池内了(さる)先生の定番
科学エッセイ! こちらも
お忘れなく! ▼

『ヤバな科学』

4-7949-6630-X 4刷!



書評紹介続々!

注目の新刊!
重版できました

古民家
再生
ものがたり

降幡廣信(ふりはたひろのぶ) 著 13/20 配本
本体 1700円 ISBN 4-7949-6651-2

「共通しているのは、それぞれの家において、苦勞しながら家を支え、家に支えられて生きてきた、人と家の絆の深さである。その絆があったからこそ、古い民家が残され、今後引き継がれていくのだ」
(3/24(木)東京新聞「自著を語る」より)

’70年代から民家の再生に取り組んできた
建築家の軌跡と具体例の貴重な記録!

晶文社 読書家 4~5月

4月 綿井健陽『リトルバース』 戦火のバグダードから
芝山幹郎『大リーグ二階席』
田口ランテ『島はみずからの力だけで飛べない』
紀田順一郎編『書物愛』日本篇/海外篇
盛田志保子『五月金曜日』 第2期 刊行開始!

5月 田中正明編『木野田園の絵巻』
斎藤清二『「健康にいい」とはどういうことか』(仮)
山路和広『Flying Books』
永沢光佳『書き失ってしまった』(仮)
小池 遼編『鉄血愛』日本篇 新・直木賞作家の
角田光代『しあわせの値段』 日常エッセイ!
小中正昌樹『なぜ「話」は通じないのか』(仮)
斎藤貴男・沢田竜夫『共謀罪がやってくる』(仮)
小沢昭二『ユキちゃんの家』
植草甚一 スクラップブック 17 25 28

月刊営業の友

No.1 おいしかったですね。今でもよく行かれますか。

(おま)定期連載をご好評をいただいていた「麵食いシマダのこの店へ行け!」は、専事手である島田が3月に退社したため、前回はいつて連載終了となりました。今号からは営業週刊はなしで補いつつ、皆様の休憩時間のお供にでもお供わい!と、こんなタイトルをつけて新たに出版することにいたしましたので、よろしくお願ひいたします。「麵食い〜」連載時には各地の書店さん、取次店さん、版元さんから感想、応援、助言など多くのお声を寄せていただき、大変うれしかったです。中でも最初に丁寧なお手紙をくださったのがYブックセンターのSさんでした。(彼の推薦店は98年の44号、★19回に掲載)そのSさんを後日言葉を兼ねてお訪ねしました。

え?! 何を聞くん
ですか?
いやあ、多
分、おまの
顔を見れば
わかるかな
と、思っ
てたんです
が、

「い、最近では味が落ちまして、お店の人は変わらないのですが全然行っていないですね。」
萩原や中央線沿線には有名なラーメン屋も多いですが、正だと思いますが、よく行かれるお店はありますか。
「萩原駅の北口、バスのロータリーすぐ脇に「珍来」という店があってよく行きます。特別旨いわけはないのですが、ラーメンが550円。エバラのスープの素とか使ってる味で40代から50代ぐらいの主婦層や地元客がよく来る店です。隣が焼き鳥屋で、有名店とか行列のできる店に並ぶ、というのはお嫌いなんでしょうね。」
「休日の昼間は都内で数軒したり、外で食べることも多いので、ラーメン屋に行く率は高いですが、並んでまで食べようとは思わないですね。」
「外食はラーメン、種類が多いですか。どんぶり物とかは?」
「おれ、食べないですね。萩原だとおれは環八沿いに南下したとこに3軒ラーメン屋が並んでいて(と、手帳に線路と道の図をメモ書きして)、チェーン店系らしいんですが、みちのくラーメン、熊本ラーメン、宮崎ラーメンとがあります。どれかが新築宗教がやってくるの噂もありますが、おれは入ったことがないので……」
環八通りと萩原駅を合む線路とヒカワクロスした

「略図を示しながら失日のTBSテレビ「情熱大陸」で角田光代さんの仕事場と家が映っていたのには、だいたいこのへん、なによりおれもついていた。角田さんは来月、小社からも新刊が出る予定だ。ちなみに角田さんがお買い物していたスーパーは私もよく行っています、とポイントカードも見せていただいた。「高円寺にある「太陽」は味がかわつて、もうまるに似ています。萩原に01年頃できた「だるま軒」はじんこつラーメンがおいしかったのですがリニューアルして不味くなりました。旨いと思ったのは五反田駅前ガード下にある時代屋。浅草のよろお屋もいいです。おれは里の産物を使っていて……」と、短い時間の中でもポンポンとラーメン屋の名前が出てくるSさんだが、その原点は小学生の頃、土曜は4時限で終わり、家に帰るとお母さんが作ってくれた即席ラーメンにあるようだ。「サボロー番に出前一丁。たまご麺のものもありましたね。」Sさんは'90年入社、萩原の支店で6年勤め、96年から現在までYブックセンターに勤務。生お水育った萩原から今も仕事に通う傍ら、休日は都内近郊を散策、ときに美味しい店を探してたりする。川本三郎氏著、著者の選品『我もまた渚を枕』(11月刊)をこよなく愛読するSさん、ご協力本当に有難うございました。
【文章・取材 営業部 高橋千代】